



みたか環境ひろば

令和6年1月号 vol.86

みんな読んでね!



1

第11回ふじみまつりに参加して

2023年11月19日（日）、快晴の秋空の下、第11回ふじみまつり（別称、「三調めのエントツくんまつり」）が、東八道路沿いのクリーンプラザふじみで開催されました。主催はふじみ衛生組合・ふじみまつり実行委員会で、地域住民との交流や環境保全の啓発を目的としており、みたか環境活動推進会議（三鷹市生活環境部環境政策課）も毎年参加しています。

プログラムは、ふじみ施設見学会のほかフリーマーケット、リサイクル品の展示・販売、和太鼓の演奏、ソーラーランタンづくり、おもちゃの病院、飲食模擬店など、大人から子供まで楽しめる内容で、みたか環境活動推進会議は、会場の入り口近くのブースで、トヨタ燃料電池車MIRAIの電気を利用した、みつろうラップづくり、新聞紙を使ったエコバッグづくり、地球温暖化に関するパ

ネル展示とクイズを出展しました。朝方は少し冷えましたが、昼になると小春日和を通り越し汗ばむくらいで、晩秋とは思えない陽気でした。これも地球温暖化の影響でしょうか。三鷹市と調布市在住の家族連れを中心に多数の来場者を迎え、用意した景品が足りなくなるなど、スタッフ一同うれしい悲鳴を上げました。

子供達からは学校での環境教育の話も聞くことができ、また、市民の地球環境問題に関する意識の高さも再認識できました。
(岡村)



環境クイズ

三鷹市内には、庭先や自動販売機で新鮮な三鷹産の野菜を販売している農家さんがたくさんいます。さて、販売所は市内に何か所あるでしょうか？

答えは裏面!

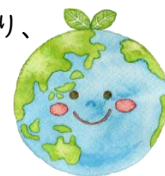
2

日々の分別

最近、紙の原料となるパルプから乳牛の餌を作ったとの報道を目にしました。また、みつろう（ミツバチの巣から採れる蠟）を塗った紙は汚れが落ちやすく繰り返し使えるうえ、土に返すと自然に戻るといった製品もあるそうです。私は、三鷹市東部地区住民協議会で環境部に所属して活動を始めてから、牛乳パック収集を知り、日頃気にかけていた雑紙もリサイクル出来ないものか考えていました。市では名刺より大きいサイズの紙であれば資源ごみとして扱われるとのことですが、菓子の紙箱やトイレット

ペーパーの芯、コピー用紙など、古紙としてリサイクル出来るはずの資源が、一般ごみとして捨てられている実態に、私は問題意識を持ちました。今では日頃から一般ごみと資源ごみを念入りに分けて、燃やすごみを少しでも減らそうと努めています。

資源には限りがあると思います。紙の大切さを知り、もっとリサイクルを広めていきたいと思っています。（石井）



Let's recycle !!



3

三鷹の緑と地球温暖化

十月になり、秋が風景を彩る中、年初より建てられた家に新しい隣人が引っ越してきました。

近所が拡大することを喜びつつも、少しの憂鬱さが私を包み込みます。なぜなら、ここはかつて市民農園だったからです。市民農園は、三鷹市のシニアコミュニティメンバーによって大切にされ、季節ごとの野菜や果物が育てられていました。2023年は気象学の記録が残る中で最も暑い年となることがほぼ

確実に発表されており、それは日本列島が最も長く暑い夏を経験したということになります。地球温暖化が進む中で、この市民農園の緑の喪失分が、他の場所での植物や木の成長によって補完されているのだろうかと考えさせられます。気候危機に直面する中、新しい隣人と消え去ってしまった市民農園の対比は、現在と未来における人類の進化と自然との共存を如何にバランスを取るか疑問を呈しています。（王）

4

地域資源を使った「エコ堆肥」

若手農業者の集まり「JA東京むさし三鷹地区青壮年部」は地域資源の堆肥化に取り組んでいます。この取り組みでは、三鷹市にグラウンドを置く東京大学馬術部で排出される「馬糞」と、同じく三鷹市にある国際基督教大学の構内で出る「落葉」を混ぜ合わせることで、良質な堆肥を製造。その堆肥を使って生産された農産物を市内小学校の児童へ提供しており、形を変えながらも平成14年から約20年続いています。この堆肥は本来廃棄するはずだった「馬糞」と「落葉」を再利用して製造するため、「エコ堆肥」と呼ばれています。今年の7月には

「エコ堆肥」を使用して作った農産物、「エコ農産物」を市内全小学4年生に提供しました。さらに、各小学校を代表して連雀学園三鷹市立第六小学校で、子供達にエコ農産物や三鷹市の農業についての授業を行いました。

持続可能性が謳われる昨今、堆肥をはじめとした有機質肥料の環境負荷の低さが再注目されています。今後も、JA東京むさしでは農産物の提供だけにとどまらず、子供達に農業へ興味や環境への関心を高め、持続可能な社会の実現の一翼を担えるよう取り組みます。

（JA東京むさし三鷹支店 井上）

近年は三鷹市に限らず、農地は相続や担い手不足などで売買されて減少傾向にあります。限られた農地や自然を大切にしましょう。



答

150か所

三鷹市内の直売は、共同直売所3か所の他に、庭先販売、自販販売機販売が150か所もあります。三鷹産の新鮮な野菜を直接手に入れられるのはもちろん、環境にとっても良いことです。みなさん、新鮮な野菜を地産地消して、三鷹の環境と農業、そしてご自身の健康を守りましょう！

次回の発行は令和6年4月の予定です

発行：みたか環境活動推進会議

（愛称 みんなの環境）

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課

電話：0422-29-9612(直)

E-mail：kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。

